

平成24年第2回定例議会（諸般の報告）

開会にあたり、諸般の報告を申し上げます。

市長に就任しまして1年が経過しました。

私は、就任間もない平成23年第2回議会定例会のこの場におきまして、市民の皆様がこの白井市に「住んでよかった」「住み続けたいまち」をつくろうという思いは議員の皆様と同じであること。それには「市民、そして議員の皆様と対話をさせていただき、現場主義を常に意識し、市民の目線に立って行動し、市民の声が生かせるまちづくりを推進したい」との所信の一端を述べさせていただきましたが、この思いを貫き、変わることなく市政運営にあたってまいります。

その一環として、本年も市民の皆様と直接対話をする「タウンミーティング」や市民判定人方式を取り入れた「事業仕分け」を実施するなど、市民の目線、市民の声が生かせるまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

さて、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射線対策について申し上げます。

これまでも「白井市放射線量低減策基本方針」や「白井市における暫定的放射性物質除染計画等基本方針」に基づきまして、除染作業を行ってまいりましたが、「放射性物質汚染対処特措法」に基づき、昨年12月に本市が「汚染状況重点調査地域」に指定されたことを受け、4月26日に国との協議が整いましたので、特に子どもへの影響に配慮した本市の独自基準を設定した「白井市除染実施計画」を策定しました。

今後は、本計画に基づいて更なる除染措置を推進し市民の安全・安心

に努めてまいります。

また、食の安全につきましては、これまで鎌ヶ谷市と共同で行っていましたが、市民が持ち込む食材の検査を今月11日からは市単独で行うほか、引き続き農産物や学校・保育園給食の食材の検査を行うとともに放射性物質の監視を行い、農家の方が安全な農作物を生産し、そして消費者の方が安心して食べられる体制を強化してまいります。

次に、印西クリーンセンターの焼却灰につきましては、1月23日の議会全員協議会におきまして、その保管状況について説明をさせていただいたところですが、印西市岩戸の最終処分場の周辺住民への説明会を開催するなどし、理解を得られたことから国の基準を下回る焼却灰につきましては、先月28日から同処分場への埋め立てを再開したとの報告を印西地区環境整備事業組合から受けたところでございます。

次に、印西クリーンセンター次期中間処理施設につきましては、印西市のまちづくりにおける総合的な観点などを参考に、正副管理者会議において印西市の泉・多々羅田地区に決定しましたが、すべての皆様から理解をいただくには至っていない状況です。これからも、丁寧な説明や情報の提供などを通してご理解をいただけるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、北総線の運賃問題につきましては、市長就任直後から北総鉄道株式会社、京成電鉄株式会社に対しての要望活動や、印西市、白井市で構成する「北総鉄道運賃問題対策協議会」において森田千葉県知事に要望活動を行ってまいりました。

また、協議会では今後の活動方針についても協議を進めており、高運賃の解消や利便性の向上に向けて活動をしてまいります。

次に、千葉ニュータウン事業につきましては、平成25年度末の収束に向け、「北環状線」の早期開通、市役所東側の「総合公園」の完成などに関しまして、地元に出向いて直接地権者の皆様と話し合いを行っているほか、千葉県、千葉県企業庁、都市再生機構など関係機関に対し、早期完成と調和のとれた収束が図られるよう協議や要望を行っているところでございます。

次に、防災対策でございますが、子どもたちの安全を優先し、「小・中学校の耐震化計画」を1年間の前倒しをしまして平成27年度までに終了させることといたしました。

また、災害時の防災拠点となる「市役所庁舎の耐震化」につきましては、昨年7月に学識経験者、公募市民などからなる検討委員会を設置し、多角的に検討をいただき本年3月に提言をいただきました。検討委員会では今月23日に市民への報告会を開催する予定です。

市といたしましては、提言を踏まえ精査し、市民への説明会やパブリックコメントを行い、整備の方針を決定してまいりたいと考えているところでございます。

市長に就任後、駆け足で過ぎた1年でございましたが、これからも市民の声をよく聞き、市民の皆様がまちづくりに参加できる機会を広げてまいりたいと考えておりますので、議員の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。